

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和 8 年 10 月 1 日
枚方市立第四中学校

<学力調査結果の概要>

○国語について

- 対話の中で必要に応じて質問し、内容を理解すること（話すこと・聞くこと）や文章読解の中で適切な言葉や内容を解釈することが府平均を大きく上回った一方、自ら考え解決策を提示するなど、正解がなく自分で考えること（思考・判断・表現）が主な課題である。また、漢字に対しても苦手意識が強く、文脈に即して語句を文章内で使うこと（書くこと）も課題である。今後の方針として苦手とする書くことや、自分で考えて提案する想像力の育成向上を図っていききたい。

○数学について

- 学年全体の学力の底上げが見られる一方で、記述式問題における無解答率の高さが主な課題である。「数と式」では、文字を使った計算や式の処理手順といった基礎的な力が多く生徒に概ね定着している。「データの活用・確率」においても、確率や箱ひげ図の読解など、資料から情報を読み取り適切に処理する力が身についた結果と考えられる。今後の方針として、正答率がやや伸び悩んだ図形領域の克服に向け、根拠を明確にして論理的に説明・記述する演習機会を増やし、思考力・表現力の向上を図っていききたい。

○英語について

- 書くこと：正答率はおおむねよかった。特に、まとまりのある文章を書くことができている生徒が多い。

読むこと：「書くこと」に比べ、正答率がやや低かった。特に、必要な情報を読み取ることに課題がある。

聞くこと：必要な情報を聞き取ることはできているが、概要や要点を捉えることに課題がある。

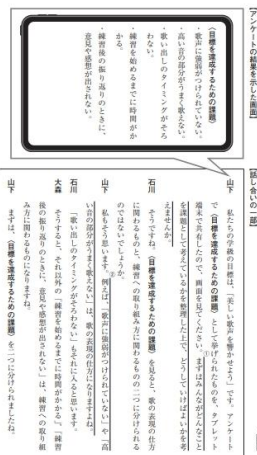
話すこと：語彙や表現などの知識を、実際のコミュニケーションにおいて活用できている生徒が一定数いる。

国語において成果があった設問

【成果が見られた設問】

必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる

- 二 『話し合いの一部』の——線部②「例えば、『歌声に強弱がつけられていない』や『高い音の部分がうまく歌えない』は、歌の表現の仕方になりますよね。」という発言について説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までのの中から「」選びなさい。
- 1 石川さんの発言の中で間違っている部分を指摘している。
 - 2 石川さんの考えと自分の考えとの相違点を明らかにしている。
 - 3 石川さんの考えに対する自分の理解が合っているかを確かめている。
 - 4 石川さんの発言に反対する意見を具体的な例を挙げながら述べている。



考察

会話の内容の理解と話の全体像の把握が必要な問になるが、大問二の二の問題では今回の本校の結果を見ると正答率は77.5% (大阪府66.8%、全国70.4%)と高水準であった。グループディスカッションや班での交流がこの結果につながったと思われる。

目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる

- 三 林さんは、本文に書かれている会話の表情を表わす擬音語・擬態語の特徴を、次のようにまとめています。次の「」に入る言葉として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選びなさい。

会話の表情を表わす擬音語・擬態語は、「」ことができる。

- 1 声に出して言った言葉を文字にして正確に伝える
- 2 実際に話した内容を整理しながら筋道立てて伝える
- 3 口調や韻つきなど話し方の様々な要素をまとめて表す
- 4 声の大きさなど話し方の要素の一つを他の要素と区別して表す

考察

文章に書かれている事実・要点などを誤解なく理解し、目的に応じて内容を解釈することが必要とされている。大問四の三の問題では今回の本校の結果を見ると正答率は78.4% (大阪府66.7%、全国68.7%)と高水準であった。单元ごとの振り返りがこの結果につながったと思われる。

数学において成果があった設問

【成果が見られた設問】

計算(数と式)における「基礎力」

- ① 2月3日のA市の最高気温は5℃、最低気温は-4℃でした。この日のA市の最高気温と最低気温について、次のことがいえます。

2月3日のA市の最高気温は、最低気温より ℃高い。

このとき、 に当てはまる数を求めなさい。

- ② 下の式で、 $7x$ の同類項をすべて書きなさい。

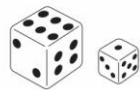
$$7x + 9 - 5x + 7x^2 + 2x$$

【数と式】における強み

「数と式」における文字式の処理や代数的な計算とは、与えられたルールに基づいて正確に式を変形し、未知の数量や関係を正しく導き出すことである。そのためには、正負の数の扱いや同類項のまとめ方などの基本的な計算規則を正しく理解し、着実に処理する力が重要である。今回の本校の結果をみると、大問1では、具体的事面における正負の数の利用を取り上げ、その正答率は86.5%（大阪府85.5%、全国85.7%）と高水準であった。また大問2の同類項をまとめて整理する問題でも、正答率は71.2%（大阪府69.5%、全国70.5%）となり、いずれも府・全国平均を上回っている。計算の手順やルールの基本的なところが多くの生徒に概ね定着しており、得点を支える大きな強みとなっている。

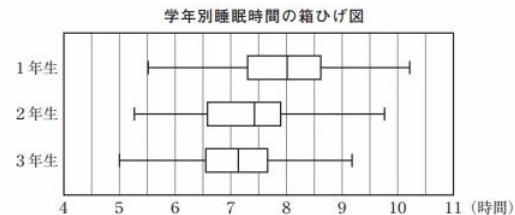
確率・データの活用における「情報活用力」

- ⑤ 大小2つのさいころがあります。この2つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が6であり、小さいさいころの目が1である確率を求めなさい。ただし、どちらのさいころも1から6までの目の出方は、同様に確からしいものとします。



- ⑨ 保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することになりました。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

(2) 二人は、学年によって睡眠時間の分布の傾向にどのような違いがあるか気になりました。そこで、次のような箱ひげ図に表して、学年別の睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。



【確率・データの活用】における強み

「確率」においては、起こり得るすべての場合を整理して割合を正しく導き出す力が必要であり、「データの活用」における情報の読解や分析では、提示された表やグラフから必要な情報を正確に読み取る力が必要である。今回の本校の結果をみると、大問5では、さいころを用いた確率を取り上げ、正答率は73.9%（大阪府58.9%、全国60.2%）と全国平均を約13ポイント大きく上回った。さらに大問9(2)の箱ひげ図と四分位数の対応を問う問題でも、正答率は81.5%（大阪府71.0%、全国75.8%）と高い結果を示している。確率の解法パターンやデータの傾向を正しく捉える力が、多くの生徒に着実に身につけている結果と考えられる。

英語において成果があった設問

【成果が見られた設問】

出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

英語 13 まとまりのある文章を書く

あなたは、留学生のトム(Tom)と仲良くなるために、交流会で一緒にしたいことをクラスに提案することになりました。「**トムと一緒にしたいことを1つ取り上げ**」、「**なぜそれをしたいのか**」を、**15語以上30語以内**の英語で書きなさい。なお、交流会でしたいことは下の【例】を参考にしてもかまいません。



出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

英語 14 まとまりのある文章を書く

あなたは、新しく来た留学生に学校生活に慣れてもらうために、学校紹介の冊子を作ることになりました。「**学校で普段行うことを1つ取り上げ**」、「**それについての説明**」を、**15語以上30語以内**の英語で書きなさい。なお、下の【例】を参考にしてもかまいません。

Our School Life



※ここには、学校生活の様子についての写真が入ります。

【例】

- ・別の読書活動
- ・授業
- ・給食
- ・清掃
- ・その他

<解答欄> ※半角で入力してください

考察

「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「導入―本論―結論」や「主張―根拠や具体―主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことも必要である。また、語数の制限にも注意する必要がある。

問題13 留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を書く本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く必要がある。文法や語彙になどに誤りがあるものの、条件を満たして解答しているものが36%（全国28%）を超えており、全体の正答率としては50%（全国44%）を超えている。しかし、15語以上という条件に満たさない解答も無解答合わせると38%となっており、できている生徒とできていない生徒が大きく二分される結果となった。

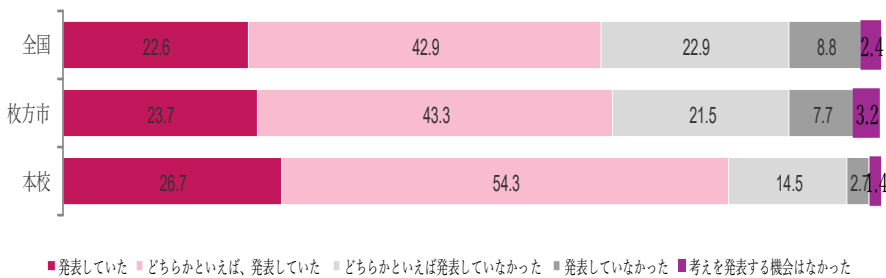
問題14 学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと必要がある。すべての条件を満たして解答しているものが24%（全国18%）と4人に1人が正答している。語数の条件を満たしていないものが無回答を除き、17.3%となっているが全国平均（28%）と比べて低い。無解答率が、17%（全国14%）となっているので、少しだけでも書いてみることも指導していきたい。

質問紙に関する調査

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

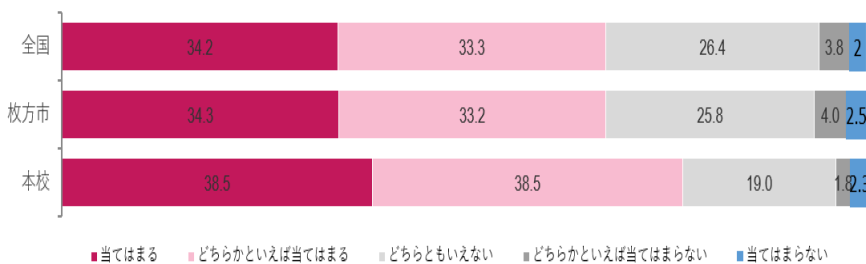
【成果が見られた項目】

質問：1,2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか？



【考察】肯定的評価を合わせると、80%を超え、国の平均を15ポイント以上も上回る結果となった。1年次から、どの教科においても、自分の考えを班やクラス全体で発表する機会を積極的に設けてきた。そのため、前で発表することに慣れるだけでなく、どのように発表すれば相手にうまく伝えられるのかを考え、工夫するようになっていたと考えられる。

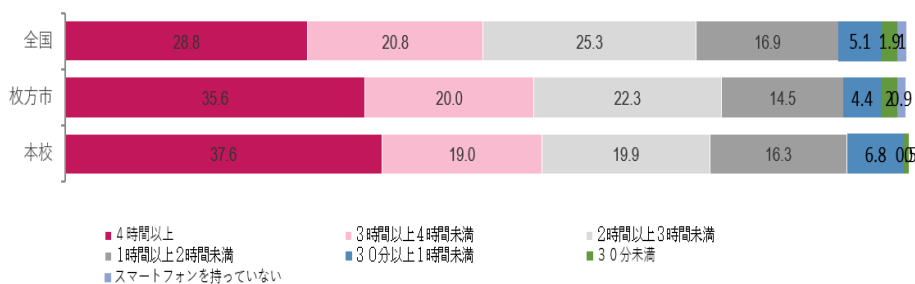
質問：あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。



【考察】本校における課題でもあった質問項目であったが、今年度77%に達し、全国の平均を10ポイント近く上回る結果となった。小学校のころから互いを認め合える人間関係づくりを行ってきており、中学校でも総合的な学習の時間を中心に取組を進めてきた結果であると考えられる。先の質問にもあるように、生徒たちがのびのび自分の意見を発表できることにもつながっている。

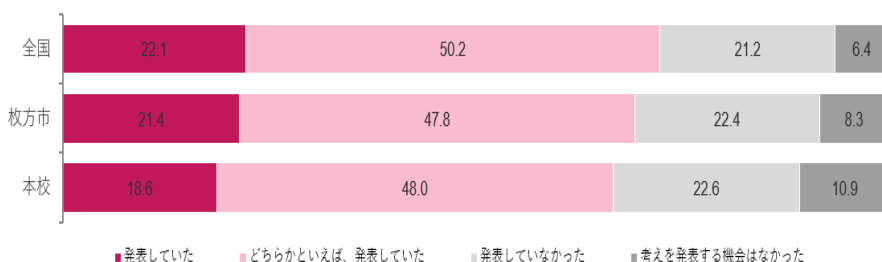
【課題が残った項目】

質問：自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



【考察】他者の意見は他者の意見として受け入れられるものの、その意見に対立させたり、より深めたりすることが難しいと考えられる。他者の意見について考えることは、自分自身の視野を広げ、自分の成長につながることを理解してもらえよう言葉かけを全教員で意識して行っていく。

質問：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。



【考察】地域のつながりが希薄化しつつある昨今、自分が生まれ育った地域に愛着を持つ子どもが少なくなっている。今年度は少し改善されたが、今後も、ゲストティーチャーとして地域の方を招いたり、職場体験でさまざまな地域の方と関わったりするなど、地域社会とつながる機会を、その地域の学校である四中が中心となってつくっていく必要がある。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

昨年度より「幸せな人生を生きあうために必要な6つの力」に授業でつなげることを意識した『LINK6』が学力向上テーマとして取り組みを進めております。6つの力とは、「自分を知る」、「自分で決める」、「チャレンジ・行動」、「振り返り・改善」、「やりぬく」、「コミュニケーション力」です。また今年度は、このうちの「コミュニケーション力」に重点を置き、それぞれの授業のどの場面でその力をつけさせていくのか、学力向上委員会や教科部会で話し合いながら研究を進めております。

今回の調査の結果から、考えたことを自分の言葉で表現したり、文章にしたりする力がついてきていることがわかります。これは、生徒たちが自分の意見を発表する機会を増やし、そのために自分で発表内容を工夫させる取組を日々行ってきた成果だと考えられます。

しかしそこにたどり着く以前に、問題の文章を読み取り、覚えていた用語や公式が問題とつながらず、答えられない場面がありました。普段の授業で生徒に要点を整理させたり、内容を読み取らせたりするなど、教師の発問や課題を研究し、より生徒が思考できるような場面を日常的に取り入れていきます。

具体的には、仲間と「コミュニケーション」を取りながら課題解決をしていくような授業や、「自ら学びを選択して」進められるような授業を適宜取り入れ、相手が何を伝えたいのか、それに対して疑問を抱いたり、自分の考えを伝えられたりするような場面を増やしていきます。

一方で、昨年同様、各教科で知識の定着を細かく見取るために小テストや単元テストの実施を随時行い、問題の内容についても、設問の工夫を行い、より生徒が思考を深めながら取り組める問題を出題できるよう、教科だけでなく、その枠を超えて話し合いながら工夫して参ります。

(2) 家庭学習について

中間テストがなくなり、日々の学習の取組や、単元ごとに細かく学習の成果をみとるようになって3年目になります。単元の最後に提出すべき課題や単元のまとめレポート、テストなど、見通しをもって日々どう学習を進めるか自分で考え、決められるようにしています。また、長期休業における宿題についても、ただワークに取り組むのではなく、学習したことを使って、自ら考え、調べ、表現するような、少し背伸びをして「チャレンジ」する内容のものに変わりつつあります。ただ、取り組み方や取組の進め方に苦慮する生徒も多く、教員が伴走者となり道筋を一緒に考えられるような体制づくりを整えていきます。今後も学習に取り組むお子さまの姿を見守っていただくとともに、お子さまが悩んでいるときには、少し声をかけてあげてください。ご家庭におきましても、本校の学力向上における取組をご理解の上、お子さまが主体的に学びに向き合えるよう、引き続きサポートをよろしくお願いします。

下記は「平日1日あたりどれくらいの時間、スマートフォンやパソコン、タブレット、ゲーム機等でSNSや動画視聴をしますか(学習やゲームをする時間をのぞく)」の結果です。本校生徒のSNSや動画視聴の時間が、全国に比べてかなり長いことがわかりました。引き続き、四中でもSNSや動画視聴との正しい付き合い方ができるよう、講演会や特活の時間を使って学習する機会を設けていきます。ご家庭でも、今一度SNSの利用や動画視聴についてしっかりお話をする機会を設けていただきますよう、ご協力を宜しく願いいたします。

